

令和6年度第4回 大分県森林づくり委員会 会議録概要

日時:令和7年2月21日(金) 14:30-16:10

場所:大分県庁新館13階 133会議室

出席者:林委員長、大平委員、板場委員、中野委員、綿末委員、菅委員、三ヶ田委員、那波委員、
堺委員、詫摩委員

議事1 第4期大分県森林環境税報告書 大分県の森林林業を取り巻く現状と課題について

現在の状況については農林水産業振興計画をもとに、また取り組むべき森林・林業の課題については5項目の課題について、事務局より説明を行った。

(委員の主な意見等)

- 現状と課題について、森林経営管理制度、国の森林環境税が創設されて、県の森林環境税がどう変わったのかや、整合性について記載すると分かりやすくなると思う。
- 次世代の教育について、教育現場の様子など、丁寧に記載して欲しい。
- 県の森林環境税の報告書ではあるが、大分県全体の森林をとらえて、国の森林環境税で市町村が行う部分も含めて、包括的に記載されるべきではないか。
- 脱炭素社会の実現に向けた取組みについては、本県の現状を鑑み、重要性が認知されていることを明記した方が良い。
- スギ花粉については、県民の関心も高いため具体的に記載してはどうか。
- メディアの方々を通じた広報にも工夫すると良い。
- 担い手対策については大変深刻な状況なので、強力な取組みが必要。

議事2 第4期大分県森林環境税報告書 大分県森林環境税の今後のあり方について

第5期への継続、税額・税率、税の名称、テーマ・取組の柱について、事務局より説明を行った。

(委員の主な意見等)

- 税金が循環して最終的に森に還元され、県全体のために役立つということが、よりわかりやすくなるとうい。
- 人づくりは学校教育だけではできず、社会教育や生業としている方との協力も必要であり、柱に「ネットワークづくり」といった表現も加えてはどうか。
- 国の森林環境税の取組に移行する部分と、県森林環境税の5期に取組強化できるものが住み分けとしてわかりやすくなるとうい。
- 名称について、国と県の森林環境税のどちらにも「環境」がつき分かりにくいので、県森林環境税の名称変更について検討の余地があるのではないか。
- 国と県の森林環境税の用途の違いを打ち出すための名称変更はありえるのではないか。
また、変更はこのタイミングしかないのではないか。